

ふくしま食・農再生戦略関連情報

女性の元気は農村の元気!

～農地・水・環境保全向上対策研修会を開催～

去る2月7日(日)、富岡町「学びの森」において、福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会「浜方部活動組織研修会」が開催され179名が参加しました。3年目にあたる今年、「女性の元気は農村の元気!!～女性による農地・水・環境の創造へ～」と題して、女性の視点やアイデアを活かした活動の推進をテーマとした研修会を行い、今後は活動へ女性の参加を計画したいと思う、などの積極的な意見が出されました。

また、平成19、20年度にテレビや新聞を賑わせた南相馬市原町区渋佐地域資源保全隊で行っている晩秋のひまわりについての事例発表があり、他の組織に対し取り組みを呼びかけました。参加者に対するアンケートによると、62%の方が「ひまわりによる景観形成への取り組みを考えている」との回答がありました。

今年の夏から晩秋にかけては、相双管内のあちこちで美しいひまわり畑が見られるかもしれません。

(農村整備部)



集落営農情報

3年連続達成! 大豆反収200kg取り

南相馬市小高区上浦地区では、営農改善組合が地域のまとめ役となり、平成19年度からブロックローテーションによる水田作大豆に取り組んできました。地域の担い手である上浦生産組合が中心となり、大豆を作る以上は収量確保と高品質を目指そうと、「反収200kg超」「上位等級90%超」を目標に掲げ、排水対策や施肥など徹底した栽培管理を行いました。その結果、今年度は、反収256kg、上位等級率98%となり、3年連続目標を達成することができました。平成20年産の県平均値、反収147kg、上位等級率61%と比較しても、優れた成績です。

4年目となる来年度は、新たな集落の加入により作付面積は17haに拡大することが見込まれ、また、ブロックローテーションが一巡します。

今後も目標達成を目指しながら、担い手経営の発展のため法人化も視野に入れ、集落と担い手が一丸となって取り組むこととしております。

(農業振興普及部)



大豆転作団地の開花期の様子

食育・地産地消関連情報

相双の春を
感じよう!!

～相双の農林業

☆探検隊バスツアー(相双の春を満喫し隊)開催～

去る2月27日(土)、相双の農林業☆探検隊バスツアー(相双の春を満喫し隊)が開催され、当日はうつくしま農林水産ファンクラブ会員等39名が出席しました。今年度2回目となるツアーは、相双地方で春に収穫される農産物を巡りながら地域の食材や食育・地産地消に理解を深めることを目的として、JAそうま新地ニラ部会の「ニラ」や相馬市和田観光母組合の「いちご」について学習しました。

また、お昼は「地元産の米粉ランチに挑戦!」と題し、鹿島都市農村交流研究会の皆さんの指導により米粉ロールケーキなどの家庭で簡単にできる調理実習を行いました。初めて米粉料理を体験する参加者が多く、ロールケーキを巻く参加者の顔は真剣そのもの。米粉を手軽に利用する方法を積極的に学んでいました。

午後からは、そうそう食農サポーターの渡部チイさんの指導により、南相馬市産のタチナガハと川内村産のふくいぶきを利用した2種類のみその仕込みを体験し、みそや大豆について理解を深めました。

参加者は、生産者との交流を通して食と農に理解を深めながら相双地方の春を満喫していました。

(企画部)



ニラ栽培の様子を見学

兵(つわもの)紹介

男性顔負け 女性林業家!!



高橋和子さんを紹介します。

相馬市在住の高橋さんは、相馬地方林業企業組合に所属し、林業作業に従事している身心ともに健康で元気のある女性林業家です。昭和52年から32年間林業作業に携わっている大ベテランで、各種技能免許も取得しており、組合では理事として安全衛生管理に努めるなど、周りからの信頼も厚い方です。

また、平成16年度に福島県もりの案内人養成研修、18年度に森林ボランティアリーダー育成研修を修了し、小学校の森林環境学習や公民館活動において、植物観察・ネイチャーゲーム・木工クラブなどの指導者として活躍しており、大きな声で丁寧にわかりやすい解説は、参加者から好評です。

さらに、高橋さんは、地域活動にも積極的に、地元の中倉山周辺の森林整備や遊歩道の維持管理に仲間とともに参加しています。また、平成20年からは福島県林業普及指導協力員として、各種研修会の講師として協力をいただいております。

今後のますますのご活躍を期待しております。

(森林林業部)



●子どもプロジェクトの推進!!

農山漁村への長期宿泊体験活動を推進する「子ども農山漁村交流プロジェクト（以下、子どもプロジェクト）」が平成20年度より始まり、相双地方においても、その受け入れ協議会が3地域で設立され、受け入れ実施に向けた取り組みが進められています。この取り組みを支援する研修会を去る3月3日（水）に開催し、受け入れ協議会構成員など約30名の参加がありました。研修会では、県より子どもプロジェクトの現状等について説明した後、南相馬市立福浦小学校長の木村政文氏より「喜多方市での宿泊体験活動に参加して」、浪江町教育旅行プロジェクト実行委員会委員長の原田雄一氏より「浪江町における子どもプロジェクトの受け入れについて」と題して事例紹介がありました。

また、子どもプロジェクト推進上の課題や対応策について活発な意見交換も行われました。

この研修会を契機として、相双地域における子どもプロジェクトの受け入れ体制の整備が期待されます。（企画部）



●家庭で気軽に米粉を利用しよう!!

日本食に欠かせないのが「お米」。ごはんはもちろんのこと、だんごやせんべいなど、お米は昔から様々な加工品に使われてきました。最近では、細かい粒子の米粉も販売されるようになり、パンや洋菓子など、米粉を使った加工品も増えています。



米粉製粉機

県では、新商品開発や米粉製粉機械の導入などを支援し、米粉の普及を推進しています。相双地方においても飯館村の直売所「もりの駅 まごころ」と南相馬市の「鹿島都市農村交流研究会」に米粉製粉機が設置されているほか、飲食業者によるメニュー開発や菓子業者による商品開発が行われています。

米粉は、調理法によって食感が変わり、様々な食材との相性も良いのが特徴です。

小麦粉のようにダマにならないので、ホワイトソースやお好み焼きなどに使いやすく、片栗粉と比べるとゆっくり固まるので全体に均一にとろみをつけることができます。また、天ぷらに利用すると、油の吸収が抑えられ、カラッと揚がります。



気軽に米粉料理に挑戦しよう!

相双農林事務所では米粉の利用について、積極的に情報提供等を行っています。是非ご活用ください。（企画部）

●定年帰農者・新規就農者園芸セミナーを開催

去る2月14日（日）、新たに園芸を始めたい方を対象とした園芸セミナーが開催され、50代、60代を中心に定年帰農者等30名が参加しました。セミナーでは、双葉地方で取り組んでいる園芸農産物についてガイドブックを使った講義と、JAふたば、JA全農福島より園芸農産物の出荷販売についての説明を行いました。

午後からは、施設ハウレンソウ栽培に取り組んでいる齊藤宗一さん（双葉町郡山）のほ場で現地研修会を行い、ほ場づくりやハウレンソウ栽培の体験談を聞いたり、農業機械・調製作業場の見学や、ハウレンソウの収穫調製を体験しました。

参加者の皆さんは、野菜や花きの経営について理解を深め、実際に生産現場に触れたことで、園芸生産に意欲を持たれたようです。（双葉農業普及所）



コラム

赤の女王仮説

森森林業部長 熊谷建一

— 昨年の8月、久しぶりにオモダカに出会いました。会津若松郊外の水田。中心が黄色のおしべ、ぐるりと囲んだ3枚の丸い白い花が清楚です。周りを見ると1株ではなく、あちこちに生えています。オモダカが減ったのは除草剤が原因と教わっていたので、この田んぼの持ち主は無農薬農法を実践しているんだ、と独り合点していました。

時は過ぎ、昨年9月のNHK「クローズアップ現代 スーパー雑草が水田を襲う」の放映には衝撃を受けました。農家のあいだではオモダカに除草剤が効かない、ということは常識中の常識なのでしょうが、わたしは今まで知らなかったのです。番組では外国の事例でしたが、ある除草剤の耐性遺伝子を組み込んだダイズ生産現場でも雑草が猛威を振るっている、とも述べていました。つまり、これらの事実は雑草もある程度の世代交代を経れば、除草剤に打ち勝つ個体に進化し得ることを示しています。ヒトは除草剤が効かなくなれば、より強力な除草剤を開発します。しばらくの間、雑草は姿を消す。しかし、絶滅したわけではなく、雑草はしたたかに変異を繰り返し、再び除草剤の耐性を得る。やむなくさらに強力な除草剤

を開発。除草剤と雑草はこのようなシーソーゲームを延々と繰り返すこととなります。これを旨く言い得ている学説が「赤の女王仮説」です。

「赤の女王仮説」は、「鏡の国のアリス」の主人公アリスが鏡の向こう側の世界に迷い込み、そこでチェスの駒の赤の女王に出会った時に、いつでも走っている女王に対して、「ねえ、なぜいつも走っているの?」と訪ねると、女王が「同じところにとどまっているためにはいつも走り続けなければならないのよ。」と答えたことから進化の仮説の比喩として用いられています。

雑草や害虫・作物の病原菌は農業に負けないために体内のタンパク質を常に変化させ、防御システム(耐性)を進化させています。つまり、生き続けていくためには常に走り続けなければならない。まさに「鏡の国のアリス」に登場する「赤の女王」のように、です。

ヒトも昆虫もウィルスもすべての生物は生き続けるためには全力で走り続けなければならないのは確かなようです。それが「進化」といわれる現象です。

このように考えてみると「赤の女王仮説」は、アリスのお話に出てくる赤の女王に似ている、なかなか気の利いた、洒落た名前だなんて感心している場合じゃあないのかもしれない。



ふくしま食と農の絆づくり運動

ご意見・ご感想・PRしたい情報などをお寄せ下さい。
福島県相双農林事務所 企画部

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地

TEL:0244-26-1153 FAX:0244-26-1181

ホームページアドレス <http://www.pref.fukushima.jp/norin-sousou/>



ふくしま相双

R100
この印刷物は、印刷用の紙を
100%再生紙を使用しています

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙を
リサイクルできます。